
めだかボックスのおはなし 2

キイナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

めだかボックスのおはなし2

【Nコード】

N0746Z

【作者名】

キイナ

【あらすじ】

あるおんなのこのおはなし。

『ごーでもいーけぞ』(前書き)

1とは関係ない。

『どーでもいーけぞ』

「んー。あー。今何時かなー」

少女はベッドから起き上がらないまま、時計を確認した。

時計は午前6時前を指していた。

「んー……………。よっくらせ」

面倒くさそうに立ち上がると大量の制服が入っているクローゼットから制服を出した。

少女はそれをしばらく見つめると、嫌々着た。

「そーか。今日は新生徒会長の発表があるんだっけ。どーでもいいけど」

『どーでもいいけど』

それが彼女の口癖だった。

少女はそのまま、朝ご飯を食べることなく、家を出ようとした。

「いってきまーっす」

少女はそれだけつぶやいて、扉を開けた。

『どーでもいーけど』（後書き）

『完全完璧』

この世に存在する能力全てを使用可能。

そついう物語を作ろうとしたけど、やめた。

『とても奇妙な』

ほんのり明るい空を見上げながら、少女は呟いた。

「もうちょっと早く家出ればよかったなあ」

今はちょうど6時頃。

学校へ行くのには早すぎるくらいだ。

少女はゆっくり、ただゆっくりと歩く。

少女の外見に、その制服がとても似合わなくて。

少女自身もどつちやら自覚しているらしかった。

「あー、やだやだもつとましな制服ないのかよー」

くるりくるりと少女が回り、そして、その度に彼女の白い髪が揺れる。

「さ、髪が崩れる……」

少女は髪を抑えて止まった。

まるで少女の髪型ではないような、それはまさに『オールバック』
とかいう類だろう。

しかし、少女には異常なほど似合っていた。

「あーあーあー。また遅れちゃっせー。しっかたない、早めるかー。
まあ、どーでもいーけど」

そっついながらも、少女はくるりくるりと回った。

見えてきた、『箱庭学園』が。

少女の名前は白神燕^{しろかみつばめ}。

とても奇妙な人間であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0746z/>

めだかボックスのおはなし2

2011年12月2日21時45分発行